

### 発表された3つの地域づくり事業構想

#### 1. 教育文化分科会

「子育て世代の参画による湯田地区の閉校跡地を『昭和の再現となる』広場にする事業」

将来にわたる地域コミュニティづくりの担い手として期待される子育て世代の参画のためには、関わりを深めたいという意向にある生活課題の解決に向けた取り組みが必要

- 開催時間等の縛りのない「こころ開放サロン」
- 子育て世代が気軽に話せることができる「ほみぶちまけ会」
- 放課後学童保育
- グラウンド開放
- 親子レクレーション

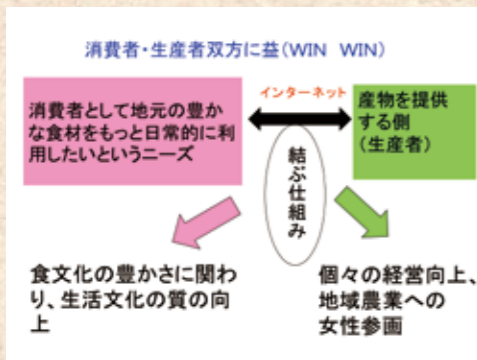
**閉校跡地を利用**

子育て世代の活動を支援する協力体制をつくる

子育て世代の参画  
＝ベテラン世代に子どもをみてもらう

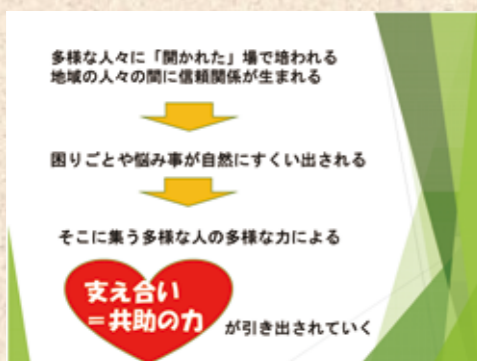
#### 2. 産業経済分科会

「豊かな地元産物を買いたい人を掘り起こす 地産地消 WINWIN事業」



#### 3. 生活環境分科会

「いつでも・どこでも・どなたでも自治会館 開放モデル事業」



地域生活者の視点から、地域の一人一人の多様な問題に寄り添った問題解決を模索

### 女性50人委員会の活動発表 10年の軌跡と新たなチャレンジ

薩摩川内市女性50人委員会は平成17年4月に発足。男女共同参画社会の実現を目指す目的で作られ、市政に市民の声を幅広く反映させるために、女性の立場から提言してきました。女性50人委員会の委員は、公募や各地域からの推薦で選ばれます。任期は各期2年間で今回は第5期にあたり10年目になります。第4期まではサービスを受ける側の視点に立ち提言してきました。第5期は新たな

チャレンジとして、サービスを受ける側であると同時にサービスを提供する側でもあるという視点から提言しました。合言葉は「We Do!!」

話し合いには4つのルール、「批判厳禁、自由奔放、量を出す、結合改善(ひらめき)」がありました。一人一人を尊重しながら研究テーマを決め、現状把握↓重点課題の抽出↓事業構想の策定↓経営計画の策定という過程を経て、9グループが地域づくり事業構想を策定しました。

今回の男女共同参画フォーラムでは3グループが発表しました。

### 女性50人委員会からのメッセージ

私が私を大切に思うように他の人を大切に思う。思いやりの交流の輪を広げていくことが必要です。

異なる考え方や価値観を尊重しながら、人間らしく豊かに暮らせるまちづくり、多様な社会づくりを目指すことが求められています。

「一人一人の人權の尊重」を基盤とする男女共同参画の視点が地域づくり事業に織り込まれるように、私たちは取り組みを進めていきます。

皆さん 男女共同参画という言葉をご存知ですか。薩摩川内市では、平成17年4月「男女共同参画基本条例」を施行しました。この中で、一人一人の人權が尊重され、多様な生き方が選択でき、個人の多様な能力が発揮される社会を目指しています。

※「とらあぐる」とは、参画(さんかく)と三角(さんかく)を掛けています。「市民・行政・地域」「教師・児童生徒・保護者」「上司・部下・自分」etc…。いろいろな社会において、常に三者(三角)の関係はとても大切です。お互いがトライアングルのように響きあいながら、理解し合える社会を築けるようにとの願いが込められています。

地区コミュニティ協議会などから、初めて特産品の出店もあり、これまでとは一味違う内容での開催となりました。

今回は「多様な生き方をしている市民一人一人の人權を尊重するために、行政サービスにだけ頼るのではなく、私たち自身で何ができるか」を主軸に、薩摩川内市女性50人委員会の活動発表、パネルディスカッション、参加者が対話するダイアログカフェが開催されました。



展示コーナー(せんだいCAP)



地区コミュニティ協議会などの物販会場の様子



### 男女共同参画情報コーナー わたしたちの望む社会へ



【編集】=「とらあぐる」編集員

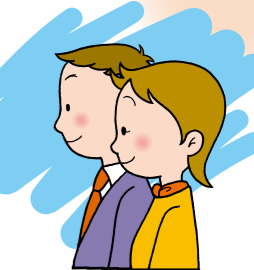
### 【特集】

# We

# Do!!

# 挑戦

今、わたしたちができること



平成26年度男女共同参画フォーラムが開催されました。

10月19日(日)に国際交流センターで「男女共同参画フォーラム in 薩摩川内」が開催されました。

このフォーラムは、市民の皆さんが多数集い、情報・意見交換を進めることにより、男女共同参画社会づくりへのさらなる気運を高めることを目的に毎年開催され、今回で16回目となりました。

多様な人々の集まりである地域で、一人一人が尊重され、誰もが住みやすいと思える「地域づくり」とは、固定的性別役割分担意識にとらわれず、自分らしさが尊重されるとする男女共同参画社会を目指すところに重なります。男女共同参画社会は、待っていて訪れる社会ではなく、私たち自身が、地域づくりに参画意識を持ち、創りだしていく社会だという気付きを得るフォーラムとなりました。

※9グループの計画書は本庁コミュニティ課に備え付けてあります。また、市ホームページにも掲載してあります。